

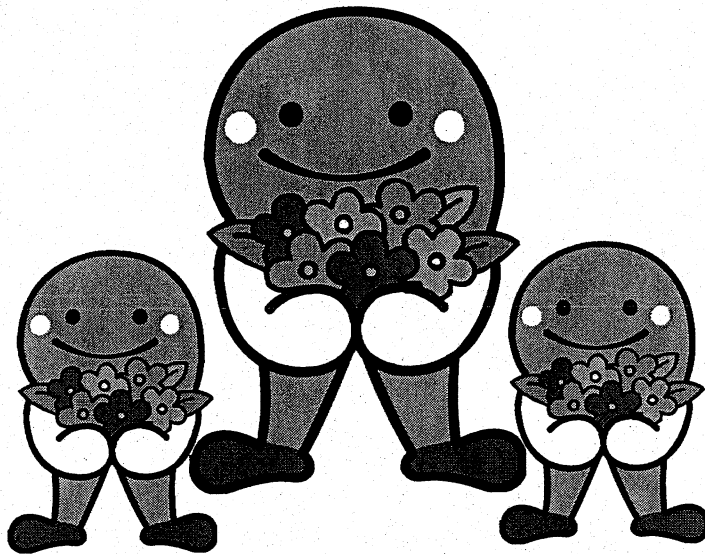
飛躍への挑戦！  
高知県産業振興計画

変わろう・変えよう・産業と暮らし

第2期高知県産業振興計画 ver. 3

～ みんなが主役 高知の元気発進プロジェクト ～

《地域アクションプラン》(案)  
安芸地域抜粋版



平成26年●月

高 知 県



## 1 安芸地域

### (1) 地域の産業を取り巻く状況

安芸地域は、海・山・川の恵まれた自然を活かし、古くから第一次産業を中心に営んできましたが、その衰退とともに人口減少が進み、昭和30年代半ばには10万人余であったものが、平成17年国勢調査時には58,340人で、平成22年調査時には53,576人と近年の5年間でも、8.2%減少するという状況にあります。

また、15歳から64歳までの生産年齢人口についても、平成17年調査時の33,085人から、平成22年調査時には29,094人と約12.1%減となっています。一方で65歳以上の人口は2.1%増となっており、少子高齢化が進んでいる状況となっています。

農業では、平野部はナスを中心とするハウス園芸地帯として、中山間地域は古くからのユズの産地として、それぞれ日本一の生産量を誇っています。しかしながら、ナスに関しては、農業者の系統離れなどにより、産地においては農業者間の支え合いや教え合いの意識の低下が、消費地では市場での優位性の低下が課題となっています。一方、ユズに関しては、高齢化の進展に伴い管理作業が比較的容易な果汁出荷へ移行している中であっても、昨年度から日本初のヨーロッパへの青果輸出の動きも出てきました。

林業では、当地域の森林率は県下平均を上回る88%と高く、かつては「魚梁瀬杉」を中心とした優良で豊富な天然資源を背景に、林業・木材産業は大いに栄えました。しかしながら、天然資源の減少や木材の貿易自由化による木材価格の長期低迷により、現在の林業を取り巻く情勢は極めて厳しい状況にあります。こうした中で近年、木質ペレット燃料を生産する工場が整備され、木質バイオマスボイラーの導入も進んでいます。また、木造建築物（公共）の推進や木質バイオマスの活用など、国産材の自給率を向こう10年間で50%まで引き上げるとの国の方針が示されたことにより、今後これらの取組がさらに加速されるものと期待されています。

水産業では、水揚量や魚価の低迷、燃油や漁業資材に要する経費の増大が漁業経営を圧迫しています。前期プランでは、高級魚であるキンメダイの消費拡大や販売促進に取り組み、関西市場への参入の足掛かりができるとともに、民間企業と県漁協との連携による定置網漁獲物の加工事業によって10名を超える雇用が確保されました。今後は、取扱量や生産量の増加による事業規模の拡大や、より広い範囲に事業効果を波及させる視点での取組への展開が期待されています。

商工業では、漁業用機械や酒造等の地域の特性を活かした企業が根付いていますが、海洋深層水関連産業や一部の工業団地を除いて製造業の集積といえる規模には至っていません。また、地域内の商業機能の縮小と消費者ニーズの多様化により、高知市など地域外への買物客の流出が進んでいます。

観光では、圏内には自然や歴史、文化遺産など多彩な魅力をもった観光資源があります。しかし、高知東部自動車道が一部開通したものの、幹線道路が単線であることと、圏域内の宿泊キャパシティが小さいことから通過型旅行が中心の地域となっています。

今後は、世界認定された「室戸ジオパーク」や「モネの庭」など集客力のある観光資源

を核として、地域内の観光資源と組み合わせて一泊以上滞在できる旅行商品づくりが課題となっています。

## (2) 地域アクションプランの概要

当地域では、第一次産業の振興に向けた生産・加工体制等の充実・強化や、販路の拡大の取組を継続するとともに、地域の一次産品等を活用した加工品づくりや、道の駅・直販所における販売機能の強化にも引き続き取り組むこととしています。

農業分野では、平野部のナスと中山間地域のユズが取組が中心となっています。ナスに関しては、系統外生産者を含めた地区会や勉強会の開催、また学び教えあう場の活用などを通じて、生産者組織の活性化と産地のまとまりづくりをより強力に進めるとともに、消費地からの要望の高い優良品種「土佐鷹」の導入を引き続き推進していくこととしています。一方、中山間地域を支えるユズについては、青果出荷の拡大と品質の向上のための新植、改植を進めていくとともに、将来にわたってユズ園を維持管理していくための仕組みづくりや、ユズ果汁等の安定供給と販路拡大を図っていくこととしています。

林業分野では、園芸用ペレットボイラーの導入や木質ペレット生産体制の整備など、地域内での木質バイオマスの効率的な利用を推進することで、地域の木材資源の活用を図っていくこととしています。また、高級品として紀州産と並び称される土佐備長炭については、前期プランにより、後継者の育成や生産施設整備が進み、明るい兆しが見えてきています。今後も引き続き、生産体制の強化と販売促進に取り組むこととしています。一方、木材加工品の販売についても、「魚梁瀬杉」を前面に出したブランドづくりや、消費者ニーズに合った商品の開発などに取り組むこととしています。

水産業分野では、引き続き、定置網漁獲物、イワシシラスなど地域の代表的な魚種を対象に、漁業関係者と民間企業が連携して、販路開拓や加工による付加価値向上に取り組むこととしています。

商工業分野では、室戸海洋深層水や、酒粕、天日塩などの地域資源を活かし、農商工連携による加工品開発や販路の拡大に取り組むこととしています。加えて、道の駅や農産物直販所などの情報発信機能を高めるなど、観光分野とも密接に連携した取組を進めることとしています。

観光分野では、平成27年の東部地域博覧会の開催に向けて、世界認定された「室戸ジオパーク」、国の重要文化財である「魚梁瀬森林鉄道遺産」、世界に二つしかない「モネの庭」など地域にある観光資源の更なる磨き上げや新たな魅力ある観光拠点づくり、圏域内で周遊できる観光ルートの設定等のほか、受入体制の充実や体験プログラムの開発等により、地域への経済効果を高める取り組みを進めていくこととしています。

## (3) 重点的な取組

- 二つの日本一を有する産地機能の維持・強化

(ナス産地におけるまとまりづくりとブランド化の推進、ユズを中心とした中山間振興)

- 森林資源の活用促進  
(木質バイオマス活用の促進、土佐備長炭の生産・出荷・販売体制の強化)
- 水産物のブランド化への取組  
(芸東地域の水産物の付加価値の向上と販路の拡大、加工体制の強化等によるシラスの魚価等の向上)
- 地域の1次産品等を活用した商品づくりと販路拡大  
(ユズ、ポンカン、酒粕、イチジク、マンゴー、エディブルフラワー、白下糖など地域の特産品を活用した加工品の開発と販路の拡大)
- 東部地域の直販所等の強化と販路拡大に向けた仕組みづくり  
(キラメッセ室戸「楽市」の機能強化、道の駅「田野駅屋」の機能強化(特産品開発及び情報発信)と施設整備等、地場産品直販所「かっぱ市」の機能強化、海の駅を拠点とした地域振興)
- 広域的に連携した観光の推進  
(室戸ジオパーク、モネの庭、魚梁瀬森林鉄道遺産、岩崎弥太郎生家などの観光資源を活かした地域博覧会の開催など)

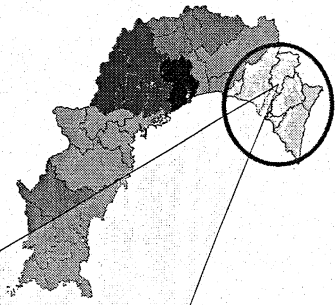
#### (4) 主要な指標及び目標

項 目	実 績	目 標
ナス(土佐鷹)の作付面積	H23 : 29.1ha	H27 : 80ha
ユズの加工仕向量	H22 : 4,250 t	H27 : 4,670 t
圏内主要施設訪問者数 ※1	H22 : 120,394 人 H20~21 平均 : 94,000 人	H27 : 140,000 人
圏内宿泊者数 ※県旅館ホテル生活衛生同業組合調べ	H22 : 137,439 人 H20~21 平均 : 123,000 人	H27 : 150,000 人

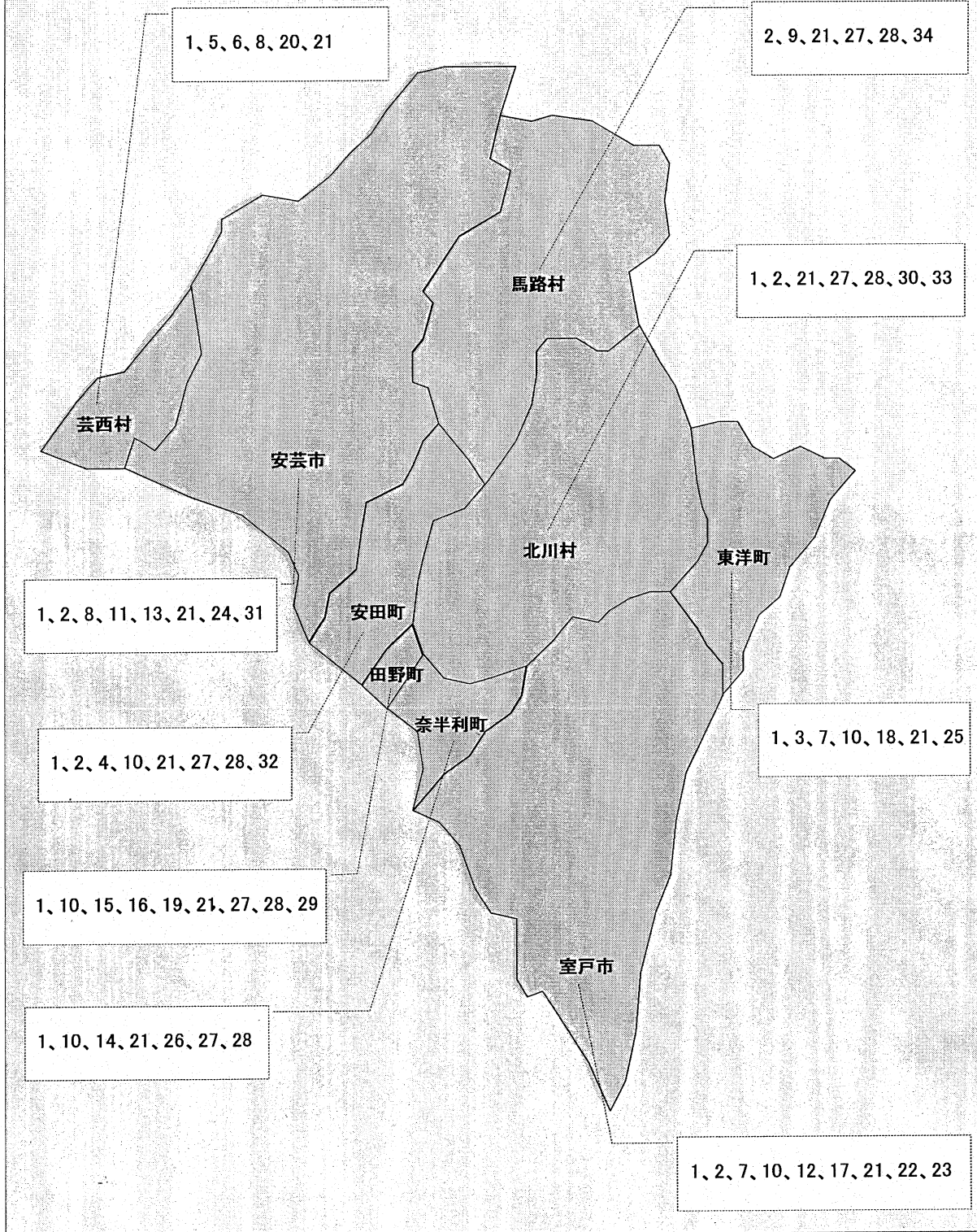
※1 主要施設：キラメッセ室戸(鯨館)、中岡慎太郎館、モネの庭マルモッタン  
安芸市立書道美術館、安芸市歴史民俗資料館、内原野陶芸館

(5) 具体的な取組

No.	項目	室戸市	安芸市	東洋町	奈半利町	田野町	安田町	北川村	馬路村	芸西村
1	ナス産地におけるまとまりづくりとブランド化の推進	●	●	●	●	●	●	●		●
2	ユズを中心とした中山間振興	●	●				●	●	●	
3	ポンカンを活用した新商品の開発と販路の拡大			●						
4	「安田(あんだ)の白い夢」の販路の拡大と新商品の開発						●			
5	エディブルフラワーを活用した新商品の開発と販路の拡大									●
6	白下糖の生産の拡大と観光への活用									●
7	土佐備長炭の生産・出荷・販売体制の強化	●		●						
8	木質バイオマス活用の促進		●							●
9	林業加工品の販売の促進								●	
10	芸東地域の水産物の付加価値の向上と販路の拡大	●		●	●	●	●			
11	加工体制の強化等によるシラスの魚価等の向上		●							
12	海洋深層水の利用拡大	●								
13	安芸市の地域食材を活用した商品づくりの推進		●							
14	地域食材を活かした奈半利町の特産品づくりの推進				●					
15	田野町の地域資源を活用した新商品の開発と販路の拡大					●				
16	完全天日塩の生産の拡大と観光への活用					●				
17	キラメッセ室戸「楽市」の機能強化	●								
18	海の駅を拠点とした地域振興			●						
19	道の駅「田野駅屋」の機能強化(特産品開発及び情報発信)と施設整備等					●				
20	地場産品直販所「かつば市」の機能強化									●
21	安芸地域の観光振興の推進～東部地域博覧会の開催～	●	●	●	●	●	●	●	●	●
22	世界ジオパーク認証を活かした観光の振興	●								
23	イルカのふれあい体験による交流人口の拡大	●								
24	岩崎弥太郎生家を核とした観光振興		●							
25	東洋町における体験観光の推進			●						
26	藤村製糸を活用した観光振興				●					
27	中芸地区における広域観光の推進				●	●	●	●	●	
28	魚梁瀬森林鉄道遺産を活用した交流人口の拡大				●	●	●	●	●	
29	体験型観光と地域の加工品づくりの推進 ～大野台地は、えいところ！～					●				
30	世界に2つの「モネの庭」の誘客強化による交流人口の拡大							●		
31	集落活動センター「かまん東川」を拠点とした魅力ある地域づくり		●							
32	安田中山地区の活性化プロジェクト						●			
33	北川村温泉を核とした中山間振興							●		
34	馬路村魚梁瀬地区の活性化プロジェクト								●	



**【安芸地域】**



【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組みと成果	課題	主な内容
1 ナス産地におけるまとまりづくりとブランド化の推進  《室戸市、安芸市、東洋町、奈半利町、田野町、安田町、北川村、芸西村》	主産地である安芸市において、ナス産地としてのまとまりの再構築に取り組む。また、消費地から要望の高い品種である「土佐鷹」の栽培拡大を全域に推進していく。	・JA土佐あき	<ul style="list-style-type: none"> <li>・系統出荷率の向上への取組(H21～25) 重点巡回指導の実施 営農相談で技術情報の提供 地区会、勉強会の開催 ◆系統外生産者を含めた地区会や環境保全型農業の勉強会の開催、また学び教えあう場の活用などにより、まとまりの意識が徐々に醸成されている。</li> <li>◆研究会ナス部会への参加者増により活動の活性化(安芸集出荷)が図られている(参加者数: H21年度 126人、H22年度 174人、H23年度 228人、H24年度 325人)</li> <li>◆安芸市のナス系統率が向上した(H21: 52%→H24: 60%)。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土佐鷹作付面積拡大への取組(H22～25) 土佐鷹普及推進協議会や生産者大会の開催 営農指導員等の研修会の実施 土佐鷹勉強会の開催 ◆地区別説明会や巡回による誘導等により燃油価格は高騰したが栽培面積は維持されている。(H25園芸年度土佐鷹実績: 出荷量3,499t、販売額11.5億円 (JA出荷ナスの19%)、H25ナス出荷量: JA全体18,192t、安芸場4,888t)</li> <li>◆安芸場の新規加入者数(H22～25園芸年度)合計26名</li> <li>◆JA土佐あき全体の消費拡大連絡協議会が発足(H25)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・系統率の向上(安芸市H24年度: 60.2%)</li> <li>・土佐鷹の面積拡大(H25園芸年度26.7ha)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆系統率向上への取組</li> <li>◆土佐鷹の推進</li> </ul>
2 ユズを中心とした中山間振興  《室戸市、安芸市、安田町、北川村、馬路村》	日本一のユズ産地として、生産性の向上や品質の低下の防止とともに、ユズ果汁等の販路拡大に取り組み、ユズ販売額の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JA土佐あき</li> <li>・JA馬路村</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(JA土佐あき)</li> <li>-新植、改植の推進への取組み(H21～25)</li> <li>◆県選抜系統を活用した母樹園が設置された(H22)</li> <li>-果汁の販売対策として計画的な施設整備(北川村: H21: 搾汁施設、H24: 果汁殺菌設備)、JA内に販売対策チームの設立(H24)。</li> <li>◆EU向けに青果輸出に取り組み始めた(H24: 3t、H25: 3t)</li> <li>◆消費者との交流イベント(収穫祭、料理コンテスト)実施(H24・H25)</li> <li>-将来にわたってユズ園を維持管理する仕組みづくり</li> <li>◆北川村ゆず振興協議会で作業受託組織を検討することとなった。(H24～)</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>(JA馬路村)</li> <li>-ゆず茶(H21)及び化粧品(H22)の加工施設の導入</li> <li>◆加工品の販売実績が徐々にではあるが増加している。</li> <li>◆販売拡大に向けて新商品開発を進めた(H24: シャーベット2種、ポン酢1種)</li> <li>◆消費者との交流イベント(ゆずはじまる祭)実施(H18～)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(JA土佐あき)</li> <li>・青果出荷へのシフト</li> <li>・隔年結果及び品質低下対策</li> <li>・母樹園を活用した優良系統の普及</li> <li>・ユズ銀行(作業受託組織H23末解散)に代わる新たな労働補完体制の検討</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>(JA馬路)</li> <li>・(株)ユズ組合による作業請負等の継続及び新たな仕組みの検討</li> <li>・加工施設の活用による安定した加工品販売及び生産者単価の維持向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆新植、改植の推進</li> <li>◆将来にわたってユズ園を維持管理する仕組みづくり</li> <li>◆ユズ果汁等の安定供給と積極的な販路開拓</li> </ul>

修正後



第2期計画					H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	指標		目標値(H27)	
<p>系統率向上への取組(赤野集出荷場、穴内集出荷場、安芸集出荷場) 産地振興の方策及び体制等の明確化</p> <p>土佐あき地域園芸戦略推進会議の開催</p> <p>課題の明確化及び対応策の検討樹立</p> <p>役割の確認と実施状況の把握</p> <p>部会、研究会など組織の活性化 (園芸戦略推進会議まとまりづくりチーム) 部会・研究会、地区会の開催、営農相談日及び学び教えあう場の設定など組織の活性化を推進</p> <p>ナス生産者の経営安定 系統率向上対策、ナスの経営安定対策、18tどりの推進について協議</p> <p>系統率向上対策、ナスの経営安定対策、18tどりの推進について実践</p>					安芸市の系統出荷率 (H21:52%)	60%	
<p>土佐鷹の推進 現地検討会、勉強会等により品種にあった栽培管理の周知・徹底</p> <p>現地検討会や勉強会の開催、実証圃の設置による技術支援及び普及PR</p> <p>(園芸戦略推進会議まとまりづくりチーム) ・土佐鷹普及推進協議会の開催 ・栽培管理技術の周知及び新規栽培者への重点個別巡回 ・個別訪問による土佐鷹への誘導</p> <p>販売促進活動の強化 契約取引の拡大、販売促進活動の充実 など</p>					土佐鷹の作付面積 (H23:29ha)	80ha	
<p>新植、改植の推進 青果の生産拡大と品質向上、計画的販売の強化</p> <p>検討会や勉強会の開催による基本技術の徹底</p> <p>母樹を活用した苗木確保と計画的な改植・新植の推進</p> <p>適正栽培管理の指導 母樹管理規定等の仕組みづくり</p>					青果出荷受入量 (H22:297t) (H23:370t)	400t	
<p>将来にわたってユズ園を維持管理する仕組みづくり 新たな組織の検討(北川村、馬路村)</p> <p>農作業受託組織、作業班体制等による作業請負の仕組み作りに向けた検討(組織等の設立)</p> <p>組織等の育成及び円滑な運営支援</p>					作業受託等の新たな組織作り	北川村1組織 馬路村1組織	
<p>ユズ果汁等の安定供給と積極的な販路開拓</p> <p>(JA土佐あき)栽培基本技術向上による加工用A品果皮の出荷拡大 ・大手飲料メーカー等との契約による販売の安定化 ・加工ニーズに対応した果汁殺菌施設の導入と施設を活かした販路開拓 ・高知県食品衛生管理認証制度への取組 ・果汁一元化販売に向けた体制整備 ・ユズ協事業との連携、海外事務所、輸出コーディネーター等の活用による輸出版売の拡大。(シンガポール、北米、EU等)</p> <p>(JA馬路村) 各施設を活用した加工品生産、加工品開発及び販売拡大への取組</p>					加工仕向量 (H22:4,250t) 加工用果皮の出来高 安芸:A品・B品 (H23:631t) 北川:A品・B品 (H23:31t) JA馬路村 加工品販売額 ユズ茶 (H21:0.8億円) 化粧品 (H21:1,700万円) ポン酢他ユズ加工品 (H21:20億円)	4,670t (10%アップ) 安芸 1,000t 北川 80t 1.6億円 5,200万円 20.7億円	

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組みと成果	課題	主な内容
3 ボンカンを活用した新商品の開発と販路の拡大 《東洋町》	東洋町の特産品であるボンカンを活用した商品開発と既存商品を含めての販路開拓を行う。	・甲浦の果樹仲間	・ボンカンを活用した商品の開発(濃縮ジュース、ドレッシング) ◆販売数 【H22】 1,807本 (ドリンク1,112、ドレッシング695) 【H23】 1,764本 (ドリンク1,239、ドレッシング525) 【H24】 2,602本 (ドリンク2,133、ドレッシング469) ・ボンカンドリンクのチラシ作製 ◆県外(関西)で5社のセールス活動を行い、新規取引の成立(大販、業務用酒販 1社)した。(H24)	・販路拡大 ・知名度の向上 ・脆弱な営業体制 ・商品の生産体制	◆商品開発  ◆既存商品の改良  ◆販路の拡大
4 「安田(あんた)の白い夢」の販路の拡大と新商品の開発 《安田町》	マンゴー大福「安田の白い夢」を中心に、以前接触のあったバイヤーに対し、ロット数を確保した具体的な提案を行っていく。 また、町内で生産される農産物(マンゴー、イチジク、アスパラ等)を使用した新たな商品を企画開発し、県外を中心に販路開拓を行って、雇用の確保と生産者の所得の向上を図る。	・安田町 ・生産者	・高知龍馬空港でのキャンペーンの展開(H24) ・県外百貨店での高知フェアに出展(H24:銀座三越4月、大阪高島屋5月) ・まるごと高知の報告会・商談会へ参加(H24) ・オープン1周年記念イベント(H24) ・H24製造量(月産):4月(11,600個)、5月(4,100個)、6月(4,200個) ◆安芸地域全体を視野に入れた原材料の選定と調達方法の検討	・導入した製造機械での本格生産に向けた大口の販路開拓  ・原材料の安定確保に向けた仕組みづくり	◆商品の企画・開発  ◆生産体制の強化  ◆販路の開拓  ◆原料の安定生産
5 エディブルフラワーを活用した新商品の開発と販路の拡大 《芸西村》	食べられる花エディブルフラワーの認知度アップを図るとともに、生食用エディブルフラワーの販路開拓と新たな加工品等の開発による販売促進や経営体制の構築を支援することにより、生産者の所得の向上を目指す。	・第2香南くろしお園	・H23、栽培ハウスを増棟(現在ハウス2棟、540m <sup>2</sup> ) ・生花を20店舗に納品(H24) ・「お花ソルト」を伊勢丹で販売開始(H25.3~) ・芸西村地域AP産業推進連絡会議開催(5回) ◆第2香南くろしお園指導員が「弥太郎商人塾」に参加し、加工品「お花ソルト」が商品化された。 ◆安芸地域資源活用共有会議でエディブル料理やスイーツの試食と提案された。	・エディブルフラワーの認知度アップ ・生花、加工品の販路拡大 ・営業活動が指導員一人のため営業力、広報不足 ・加工場等施設の機能不足	◆新たな商品の企画開発        ◆生食用エディブルフラワーの販路開拓   ◆認知度アップ・広告宣伝

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
商品開発 ・プランの検討 ・商品の試作	試作商品によるテストマーケティング	試作商品を改良し、商品化			商品数 (H22:2アイテム)	4アイテム
既存商品の改良 既存商品の改良の検討	商品の改良				既存商品の販売数 (換算本数) (H22:1,807本)	5,000本
販路の拡大 販売戦略の検討 HP仕様の検討	HPの設計及び開設	インターネット販売				
県内・県外への営業活動(酒販卸業者や居酒屋等)						
販促グッズの作成						
商品の企画・開発 新たな商品の企画と開発の促進					売上高 (H23:施設整備) (H24:生産開始)	100百万円
生産体制の強化	販路拡大に合わせた生産の強化					
販路の開拓	首都圏を中心とした営業活動の展開による販路の確保					
原料の安定生産	マンゴーの安定生産とその他の原料となる農産物等の生産開始					
新たな商品の企画開発 ・加工品等の開発・商品化 ・パッケージデザイン作成	・販路開拓及び広告宣伝活動 ・新たな加工品の開発					
	加工場等の機能充実に関する検討	施設整備	生産・販売開始			
生食用エディブルフラワーの販路開拓	販路開拓、広告宣伝・営業活動					
認知度アップ・広告宣伝 ・宣伝用パンフレット作成 ・ホームページの立上げ	インターネットを活用した販売システムの構築		販売促進			

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組みと成果	課題	主な内容
6 白下糖の生産の拡大と 観光への活用 《芸西村》	伝統ある芸西村の白下糖づくりを伝承し、白下糖の生産拡大と新たな加工品を開発・販売することにより、白下糖のブランド化(認知度アップ)と地域生産者の所得向上を目指す。	・芸西村 ・芸西村製糖組合 ・生産者グループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>先進地視察 (H23、黒潮町:黒糖新製造ライン等調査、H24、香川県:脱炭機調査)</li> <li>白下糖を使用した料理の試食会 (H23、安芸地域資源活用共有会議)</li> <li>芸西村地域AP産業推進連絡会議開催(H24、5回)</li> <li>芸西白下糖の成分分析実施 (H23)</li> <li>◆サトウキビ収穫量の増加 (H23年度、25トン、H24年度、38トン(前年比120%))</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>製糖組合員の高齢化に伴い伝統技術の継承者(後継者)の育成</li> <li>白下糖を活用した新商品・加工品の開発</li> <li>サトウキビ作付面積の拡大</li> <li>製造施設の機能強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆サトウキビ作付け面積の拡大</li> <li>◆技術を継承する人材の育成</li> <li>◆白下糖の品質向上</li> <li>◆新たな商品の企画開発</li> <li>◆白下糖を活用した体験観光メニューの検討</li> </ul>
7 土佐備長炭の生産・出荷・販売体制の強化 《室戸市、東洋町》	土佐備長炭の生産量の増大と後継者の育成を図る。	・室戸市木炭振興会 ・土佐備長炭生産組合	<ul style="list-style-type: none"> <li>(室戸市木炭振興会) <ul style="list-style-type: none"> <li>組織化:H19設立</li> <li>施設等整備(H21:研修窯2基、H22:研修窯1基)</li> <li>研修生の受入れ (H21:3人、H22:5人、H23:7人、H24:12人)</li> <li>◆施設整備により、研修生の継続した受入れにつながっている。</li> </ul> </li> <li>(土佐備長炭生産組合) <ul style="list-style-type: none"> <li>組織化:H21設立</li> <li>施設等整備(H21:共同窯2基、H22:共同窯1基、保管庫1棟、H25:共同窯3基、フォークリフト1台)</li> <li>研修生の受入れ (H21:3人、H22:2人、H23:4人、H24:4人)</li> <li>◆新商品(オガ炭)製造の検討 (H25)</li> <li>◆原木の共同購入、共同出荷の開始(H21~)により、生産性が向上した。</li> <li>◆施設整備により月産出荷能力(箱=12kg)が増加した。(H21:2,150箱、H22:3,425箱、H23:3,548箱、H24:3,670箱)</li> <li>◆製品規格を10種から19種へ拡げ、末端利用者のニーズに対応している。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>原木の安定確保</li> <li>更なる品質の向上と規格の均一化</li> <li>研修終了後の就業定着化(事業化時の初期投資(窯整備)が不安)</li> <li>(土佐備長炭生産組合) <ul style="list-style-type: none"> <li>品質の評価や知名度も高まりつつあるが、紀州産との価格差が解消されていない。</li> </ul> </li> <li>(室戸市木炭振興会) <ul style="list-style-type: none"> <li>原木の共同購入・共同出荷の取り組みがなされていないため、際立った増産には至っていない。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>《室戸市木炭振興会》 《土佐備長炭生産組合》</li> <li>◆新規製炭者の育成と量産体制の強化</li> <li>◆品質・規格の向上と新商品開発ほか</li> <li>《室戸市木炭振興会》 ◆共同出荷・販売の取組</li> <li>《土佐備長炭生産組合》 ◆原木配給施設設置</li> </ul>

修正後

修正後

第2期計画					H28以降	指標及び目標		
H24	H25	H26	H27	指標		目標値(H27)		
<p>サトウキビ作付け面積の拡大</p> <p>遊休農地の有効活用・新規生産者の確保</p>					<p>サトウキビ収穫量 (H22:20t)</p>	<p>40t</p>		
<p>技術を継承する人材の育成</p> <p>人材の確保</p> <p>製造技術の習得、その他関連する研修等への参加</p>								
<p>白下糖の品質向上</p> <p>味で勝負するための製品づくり ・成分分析による他との区別・アドバイザーの導入 他</p>								
<p>新たな商品の企画開発</p> <p>地域資源共有会議等を活用した新商品の検討</p> <p>新商品の開発・販売開始</p>								
<p>白下糖を活用した体験観光メニューの検討</p> <p>体験メニュー受入のための 伝承館の改修の検討・改修</p> <p>体験観光メニューの検討</p> <p>体験観光受入れ</p>								
<p>新規製炭者の育成と量産体制の強化</p> <p>研修生の受け入れ</p> <p>共同窯の設置</p>							<p>新規就労者確保</p>	<p>就労者 5名</p>
<p>品質・規格の向上と新商品開発ほか</p> <p>アドバイザーの招聘、勉強会の開催</p> <p>販促用DVD・取扱解説チラシ作製・看板設置・県内外イベントへの参加</p>							<p>共同窯設置 生産量の増産</p>	<p>6基 30t/年/基</p>
<p>共同出荷・販売の取組(室戸市木炭振興会)</p> <p>原木の共同調達、製品の共同出荷・販売の取組</p>							<p>新規商品開発</p>	<p>1商品</p>
<p>原木配給施設設置(土佐備長炭生産組合)</p> <p>原木配給ストックヤードの設置</p>							<p>原木配給施設</p>	<p>1箇所</p>

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組みと成果	課題	主な内容
8 木質バイオマス活用の促進 【安芸市、芸西村】	林地残材等を熱エネルギーとして利用していく。	・JA土佐あき ・(有)安岡重機 ・高知バイオマスファーム ・高知東部森林組合	・木質ペレット製造工場の稼働(H22.11～、安芸市企業) ・園芸用木質ペレットボイラーの設置 72基(H21～H24)  ◆木質ペレットボイラーの導入により、目標としている資源の利用量は概ね達成した。	・地域内のペレット需要量に対して地域内の供給量が不足しており、木質ペレットの需要と供給のバランスが取れていない ・木質ペレットの原料である間伐材の搬出量と価格が不安定 ・燃焼灰の処理 ・園芸用木質ペレットの流通体制	◆原木調達システムの構築  ◆ペレットの増産に向けた施設整備  ◆木質ペレットボイラーの増設  ◆ペレット搬送システムの構築、ストックヤードの整備
9 林業加工品の販売の促進 【馬路村】	木材加工品の販売を促進し、事業体の雇用の確保と経営安定を図る。	・エコアス馬路村  ・馬路村森林組合	・モナッカ新バッグの商品化(H21) ・産業振興推進総合支援事業による新商品の開発、試作(H21～22) ・国内外の展示会への出展  ◆展示会・商談会への出展で新たな商談の成立があるものの販売は苦戦している。  ・骨壺、子供用ベッドを新商品として開発(H22～) ・中期経営計画書作成ワーキングの開催(H24) ・経営ビジョン策定指導研修の受講(H25)  ◆職員全員が経営者的な感覚で今後の事業展開や組織運営を考えることができた	・営業部門の活動の強化 ・森、木、エコ、田舎のストーリー性を含めた商品紹介の継続 ・展示会やHPでのアンケートにより収集した顧客意見の活用と商品力アップ ・環境先進企業(協働の森参加企業等)への社用バッグ、ギフト用品等の提案 ・新商品の開発、商品のPR、販売戦略の見直し ・ヤナセスギを前面に出したブランド販売戦略 ・木製品の出荷額及び雇用者数の現状維持	【エコアス馬路村】 ◆組織の改革・人材育成  ◆国内展示会出展・新商品の開発  【全体】 ◆木製品の商品力・販売力強化

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
<p>原木調達システムの構築</p> <p>ペレット原料の安定調達に向けた検討</p>					<p>ペレット生産量能力 (H23:1,000t/年)</p>	<p>1,500t/年</p>
<p>ペレットの増産に向けた施設整備</p> <p>地域のペレット需要に近付けるためのペレット製造施設の増強</p>						
<p>木質ペレットボイラーの増設</p> <p>園芸ハウス用ボイラーの増設</p>						
<p>ペレット搬送システムの構築、ストックヤードの整備</p> <p>ペレット搬送システムの構築、ストックヤードの整備</p>						
<p>組織の改革・人材育成</p> <p>・常勤役員の配置 ・若手社員(営業)の育成・営業力の強化</p>					<p>木製品出荷額 (H22:233,000千円)</p>	<p>233,000千円</p>
<p>国内展示会出展・新商品の開発</p> <p>・展示会出展により商品のPRとユーザーの意見聴取を行い、販路の拡大に努めるとともに、商品力のアップや新商品の開発、売れ筋でない商品の廃止等を行う ・モナッカはバッグとしてのデザイン・機能を追求する</p> <p>販売戦略の見直し(役場との協働による「森の仕事」まるごと販売計画のバージョンアップ)</p>					<p>雇用者数 (H22:59人)</p>	<p>59人</p>
<p>木製品の商品力・販売力強化</p> <p>・「森の仕事」まるごと販売計画のバージョンアップ版に基づいた販売戦略、営業活動の実施 ・顧客の意見を取り入れた商品改良、開発</p>						

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組みと成果	課題	主な内容
10 芸東地域の水産物の付加価値の向上と販路の拡大 《室戸市、東洋町、奈半利町、田野町、安田町》	キンメダイや定置漁獲物など、地域の主要魚種について鮮魚販売、加工品販売の強化を図る	【鮮魚】 ・芸東水産業改良普及協議会  【加工品】 ・備前カシ水産 ・高知県漁協	・キンメダイブランド化作業部会設置及び検討(H21～22) ・脂肪含有量の測定(H21～22) ・アドバイザーを活用した市場調査(H22) ・測定キンメを使った料理レシピ等の販促資料の作成(H22) ・産地交流会への参加(H23)  ◆「土佐沖どれ金目鯛」のブランド名で関西市場をメインターゲットとして売り込みを開始	・関西圏を中心としたキンメダイの効果的なPR活動の実施  ・新たな魚種を使った商品の開発 ・大口の安定取引先の確保 ・更なる生産性の向上	◆県内市場及び県外市場の販路拡大  ◆商品力の維持・向上  ◆高知県漁協等と加工業者が連携した水産加工品の商品開発、販売戦略の検討  ◆生産性向上の取組  ◆商品開発、販売促進活動の実施
<b>統合後</b>					
11 加工体制の強化等によるシラスの魚価等の向上 《安芸市》	加工処理能力の向上等によってシラスの水揚げ量の増加、及び漁家所得の向上を図る。	・民間企業 ・安芸漁協 ・安芸おじゃ娘	・アムツ深海延縄漁の試験操業を実施(H21) ・シラス加工施設完成(H24) ・地元からの雇用創出(H24) ・企業、漁協、漁業者による加工処理能力向上に向けた協議(H23) ◆漁業者・漁協・シラス加工業者との協議を実施し、漁業関係者はシラス加工処理能力の向上による浜値上昇を希望。  ・シラス佃煮等の商品開発(H21) ◆各種イベントでのPRや直販所での販売を通じて商品の認知度が高まった。	・現状の加工処理能力では盛漁期に値崩れを起こしやすく、既存加工業者による新たな設備投資、新たな加工業者の参入等が必要  ・衛生管理・製造体制の強化、収益性の向上、販路拡大  ・操業方法や漁場探索及び操業方法の習熟	◆加工処理能力向上に向けた関係者協議と乾燥機等の機器導入  ◆処理能力向上に対応できる漁業生産体制の構築  ◆商品力、販売力の強化と新たな販路確保



第2期計画					H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	指標		目標値(H27)	
<p>県内市場及び県外市場の販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・室戸産キンメダイのPRとキンメダイの消費拡大</li> <li>・定置漁獲物など地域の主要魚種のPR活動の実施</li> </ul>					<p>(キンメダイ) 平均単価 (H20～22平均: 1,146円/kg)</p> <p>(大数漁獲物) 水揚げ金額 (H22～24平均: 13.3億円)</p>	<p>1,200円/kg</p> <p>15億円</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・県漁協による直接取引の拡大</li> <li>・消費地市場関係者との人的関係を活用した、取引の拡大</li> <li>・マリン・エコラベル認証取得を活用した消費拡大活動の推進</li> <li>・高鮮度を「売り」としたとしたPR活動の展開</li> </ul>							
<p>商品力の維持・向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鮮度保持技術の向上</li> <li>・規格の統一</li> <li>・活魚出荷や高鮮度処理の実施等による付加価値の向上</li> </ul>					<p>加工品販売金額 (H22:4,700万円)</p>	<p>12,000万円</p>	
<p>高知県漁協等と加工業者が連携した水産加工品の商品開発、販売戦略の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高知県漁協等と加工業者が連携した水産加工品の商品開発、販売戦略の検討、加工品製造販売、販路開拓</li> <li>・アドバイザーの招聘による商品開発と販売戦略の検討</li> </ul>							
<p>生産性向上の取組</p> <p>加工原料の安定確保に向けた調達方法の検討</p>					<p>水揚げ金額 (H23.1～12: 189,231千円)</p>	<p>201,000千円</p>	
<p>商品開発、販売促進活動の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大量生産・安定供給可能な看板商品の確立</li> <li>・マグロ類の加工促進と販路開拓</li> <li>・低利用・未利用の混獲魚を利用した加工品の開発</li> <li>・有望資源の見直しによる、新たな商品の開発</li> <li>・観光と連携した地元看板メニュー創出のための商品開発</li> </ul>							
<p>加工処理能力向上に向けた関係者協議と乾燥機等の機器導入</p> <p>乾燥機等の機器導入による加工処理能力の向上</p>					<p>加工処理能力向上に対応できる漁業生産体制の構築</p> <p>加工処理能力の向上に対応できる漁業生産体制の構築(漁協・漁業者協議)</p> <p>直販所の取組等、安芸漁港の活性化を併せて検討</p>		
<p>商品力、販売力の強化と新たな販路確保</p> <p>製造体制・衛生管理の向上、販路拡大</p>							

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組みと成果	課題	主な内容
12 海洋深層水の利用拡大 《室戸市》	室戸海洋深層水アクア・ファームにおける海洋深層水給水量の拡大を図る。室戸ジオパーク海洋深層水サイトとして、アクア・ファームの受け入れ体制を強化し、観光客へのPRを行う。また、海洋深層水の水産への利用について検討を行う。	・室戸市 ・深層水利用企業	<p>&lt;販路、供給地域の拡大&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イベント、講演等での深層水のPR(H21～23)</li> <li>◆供給地域の拡大のための制度策定までには至らなかったが、今後も協議を続けていくことを確認した。</li> </ul> <p>&lt;企業、研究機関等との連携等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な機関や大学との連携活動(H21～23)</li> <li>◆深層水を利用した研究依頼が増加し、新分野に向けての予備試験や各種研究を開始した。</li> </ul> <p>&lt;スジアオノリ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市場調査(H21～22)</li> <li>・プロワー改修工事(H22～23)</li> <li>・「まるごと高知」での小袋商品を始め各種イベントで販売開始(H22～23)</li> <li>・大手回転ずしチェーン店に試験出荷(H23)</li> <li>◆生産性の向上や、新たな販売先を確保するなどにより、H21年度から収支が黒字化し、大幅な経営改善が図られた。</li> </ul>	<p>&lt;販路、供給地域の拡大&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・深層水の安定的な販売先の確保</li> <li>・供給地域・量の拡大に対応できるよう、設備の維持・更新</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆室戸海洋深層水の供給地域拡大</li> <li>◆室戸ジオパークサイトとしてのPR活動</li> <li>◆深層水利用養殖の商品の開発及び販路拡大</li> <li>◆海洋深層水の水産利用の検討</li> <li>◆施設整備の検討</li> </ul>
13 安芸市の地域食材を活用した商品づくりの推進 《安芸市》	安芸の安心・安全な地域食材を活用し、新たな加工品の開発と既存商品の磨き上げを行うことで、交流人口の拡大による安芸市の経済の活性化を図るとともに、生産者の所得の向上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安芸市</li> <li>・生産団体・グループ</li> <li>・民間事業者・加工業者</li> <li>・安芸市観光協会</li> <li>・「はばたけ弥太郎」安芸市推進委員会</li> <li>・安芸「釜あげちりめん丼」楽会</li> <li>・安芸市観光ボランティアガイドの会</li> <li>・JA土佐あき婦人部</li> <li>・入河内大根のこぞう会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土佐龍馬であい博でのこころざし社中開催(H22入場者：113千人、目標100千人)</li> <li>・ボランティアガイドの育成(40名)(H21～H23)</li> <li>◆ボランティアガイドの力量アップや観光に係る人材が育成されてきた。地域食材(ナス、シラス)を活かした食の提供の動きにつながっている。</li> <li>・安芸観光情報センターの設置(H23.3)</li> <li>・新たな特産品の開発(8品目)(H21～H23)</li> <li>◆JA土佐あき婦人部「商人塾」受講などにより、なすまんの生産増(人材育成)、販路拡大に向けた動きにつながっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域食材を活用した加工品の開発と販売</li> <li>・食の提供の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆事業者と連携した地域食材を活用した商品の開発や販路の拡大</li> <li>◆生産施設や飲食施設の整備</li> <li>◆人材の発掘と育成等</li> </ul>

修正後

修正後

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
<p>室戸海洋深層水の供給地域拡大</p> <p>供給域拡大のための制度の変更</p> <p>深層水の給水量拡大</p>					<p>アクアファームの海洋深層水使用料 (H22:27,000千円)</p>	<p>35,000千円</p>
<p>室戸ジオパークサイトとしてのPR活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジオパークに関する職員研修</li> <li>・展示施設、パンフレット等の内容精査</li> </ul>						
<p>深層水利用養殖の商品の開発及び販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内外への販路拡大(県アンテナショップへの出品、販売先の開拓)</li> <li>・食品加工業者等とのタイアップによる商品開発</li> </ul>						
<p>海洋深層水の水産利用の検討</p> <p>海洋深層水を利用した貝類、藻類養殖検討</p> <p>施設整備の検討</p> <p>給水地域内での新増設等試算</p> <p>【左記検討結果により新増設の結論が出た場合】施設新増設</p>						
<p>事業者と連携した地域食材を活用した商品の開発や販路の拡大</p> <p>ナス・ユズ・土佐ジロー・シラスなどを活用した新たな加工品の開発・販売</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・販路拡大(商談会等の活用)</li> <li>・情報発信(B級グルメ大会等でのPR活動や地域食材を活用した料理コンテストの開催)</li> </ul>						
<p>生産施設や飲食設備の整備</p> <p>生産拡大に伴う施設・設備等の整備</p> <p>安芸の地域食材を提供する施設(レストラン等)の検討及び整備</p>						
<p>人材の発掘と育成等</p> <p>土佐MBA・土佐FBCを活用した育成等</p> <p>企業訪問や商工会議所女性部・中小企業家同友会安芸支部等と連携しての人材発掘</p>						

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組みと成果	課題	主な内容
<p>14 地域食材を活かした奈半利町の特産品づくりの推進</p> <p>【奈半利町】</p> <p><b>追加</b></p>	<p>地域資源を活用した加工品をつくる施設を整備することにより、地域特産品の生産と販路の拡大を図るとともに地域の生産者の収入の安定化を目指す。</p>	<p>・奈半利町</p> <p>・奈半利なんでも市加工グループ</p> <p>・いちじく加工品グループ</p> <p>・加領郷漁協女性部</p>	<p>○奈半利なんでも市加工グループを設立(H19)し、奈半利味噌を中心に加工品の製造、販売を開始</p> <p>・商品数:3品(奈半利味噌、にんにく酢味噌、焼肉のたれ)</p> <p>・取引先:まるごと高知ほか9社及び個人(H24)</p> <p>○いちじく加工品グループは、奈半利町の特産品のいちじくの加工品を製造・販売。</p> <p>・商品:ジャムやゼリーなどの菓子類</p> <p>・販売場所:奈半利駅直販所ほか町内外の数カ所</p> <p>○加領郷地区加工グループ(加領郷漁協女性部)は、加領郷漁港に水揚げされる水産物を使った加工品や惣菜をつくり、町内外で販売</p> <p>・商品等:金目鯛炊込みご飯、船上天日干しスルメイカ、惣菜など</p> <p>・販売場所:加領郷漁民センター、サニーマートほか、出張販売(役場ほか、イベント会場等)</p> <p>・土佐の料理传承人に認定</p>	<p>・現在使用している加工場の老朽化と狭隘化のため、増産などの新たな展開に対応できない</p> <p>・新商品の開発</p> <p>・生産拡大のための人材確保</p>	<p>◆施設整備の検討</p> <p>◆加工施設の整備</p> <p>◆商品づくり</p>
<p>15 田野町の地域資源を活用した新商品の開発と販路の拡大</p> <p>【田野町】</p> <p><b>修正後</b></p>	<p>田野町の地域資源を活用した商品を開発し、販路を拡大していくことにより、雇用の確保と地域の経済の活性化を目指す。</p>	<p>・四国部品鯛中芸事業所</p> <p>・民間企業</p>	<p>・酒粕スイーツ「蔵乃風」「蔵人の菓」等の開発、販売開始(H22~23)</p> <p>・塩シャーベット「塩姫」等、生姜のお菓子「爪の垢」の開発、販売開始(H24~25)</p> <p>◆酒粕スイーツに関しては、数種類の商品を開発することができた。その後、新しい商品開発も行い、商品構成を充実させることができた。</p> <p>◆酒粕以外の商品についても開発に取り組み、数種類の商品が販売となった。</p> <p>・酒粕ドレッシング試作・改良、パッケージデザイン作成(H22~23)(ダイイチダルマ食品㈱※H24事業廃止)</p> <p>・田野町の産品である塩を使ったアイス、大福の商品開発、販売(㈱松崎冷蔵工業)(H25)※H25はAP15関連</p>	<p>・販売場所及び体制の確立</p> <p>・製造コストの低減</p> <p>・製造工程の機械化の検討</p> <p>・地域食材の活用による新商品づくり</p> <p>・酒造場、農水産物、加工業者等との連携</p> <p>・新商品のブランド化</p> <p>・販路の拡大</p>	<p>◆商品開発と製品化確立</p> <p>◆生産体制の整備</p> <p>◆販売ルートの開拓</p>
<p>16 完全天日塩の生産の拡大と観光への活用</p> <p>【田野町】</p> <p><b>修正後</b></p>	<p>製塩ハウス施設等の整備と併せて新たな就業者の確保・育成を行うとともに、塩づくり体験を通して、完全天日塩の産業化と交流人口の拡大を図る。</p>	<p>・田野町</p> <p>・民間事業者</p>	<p>・塩づくりの過程を見学・体験できる施設を整備(H24)</p> <p>・町内の産業振興や移住促進等の事業とあわせて、体験施設運営や塩づくりに関する地域おこし協力隊を導入(H25~)</p> <p>◆体験用施設を整備し、地域おこし協力隊を導入したことにより、体験受入れによる交流人口の増に取組む環境ができた。</p> <p>◆体験用施設での塩づくりの研修も可能となり、新規就業者育成にも活用することができるようになった。</p>	<p>・集客できる体験メニューの充実</p> <p>・体験施設の実施体制の確立</p> <p>・新規就業者の確保・育成</p>	<p>◆塩づくり体験・研修施設の整備</p> <p>◆新規就業者の育成</p> <p>◆新規就業者の独立に向けた環境整備</p>

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
					H25売上額 農産加工品 :500万円  水産加工品 :150万円	農産加工品 750万円  水産加工品 200万円
商品開発と製品化					酒粕商品販売額 (H23:4,200千円)	42,000千円
生産体制の整備						
販売ルートの開拓						
塩づくり体験・研修施設の整備					体験受入回数 (H23:50回)  生産量 (H23:2t)	100回  6t
新規就業者の育成						

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組みと成果	課題	主な内容
<p>17 キラメッセ室戸「楽市」の機能強化 《室戸市》</p> <p style="text-align: center;"><b>修正後</b></p>	<p>地域食材を加えたジェラートの製造や地域産品の加工を行う施設等を整備して、新商品を開発するとともに、商品の充実や販売を促進することにより、生産者の所得向上を図る。</p>	<p>・室戸市</p>	<p>・H20年度、楽市の一部改修 ・H22年度、駐車場の部分拡張</p> <p>◆楽市来場者(H24):約25万7千人(キラメッセ全体で約32万8千人)、楽市売上額(H24):2億5千万円(全体約4億円超え) ◆県外の店舗・アンテナショップ等へ野菜等を出荷(H24~)し、販路を拡大して地産外商を推進した。</p>	<p>・取扱い生鮮品(野菜、果物等)の消費拡大 ・地域食材の加工施設の整備 ・加工施設の整備用地の確保 ・駐車スペース拡大策(隣接する保安林の解除と駐車場造成)</p>	<p>◆市場調査(マーケティング)の実施</p> <p>◆商品開発</p> <p>◆機能強化を図るための加工施設等の整備</p> <p>◆県内の道の駅等との連携</p>
<p>18 海の駅を拠点とした地域振興 《東洋町》</p> <p style="text-align: center;"><b>修正後</b></p>	<p>高知県の東の玄関口である東洋町に、観光拠点施設や地元特産品の販売・加工施設、飲食施設等の機能を付加した「海の駅」を整備することにより地域の活性化を図る。</p>	<p>・東洋町</p>	<p>・平成20年1月、海の駅東洋町(木造平屋建、171m2)開設 来場者:H21、134,896人 H22、153,446人 H23、156,063人 ・平成24年7月、火災により「海の駅」東洋町焼失 ・平成24年9月、海の駅再建委員会設置(委員会開催:3回、H24.10.29、委員会答申) ・平成25年8月、海の駅運営協議会設置(H25.12.27まで5回開催) ◆平成25年12月15日に海の駅が竣工(木造平屋建、267m2)し、平成26年1月12日から運営を再開した。</p>	<p>・地域産品を活用した加工品の確保 ・観光拠点機能の付加</p>	<p>◆海の駅の整備</p> <p>◆地域特産品を活用した加工品の開発・販売</p> <p>◆地域の情報発信</p> <p>◆高知県東部・徳島県南部等の道の駅との連携</p>

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
<p>市場調査(マーケティング)の実施</p> <p>消費者の求める商品検証</p> <p>商品開発・販売に向けた研修の実施</p>					直販所「楽市」来場者 (H23:244,968人)	258,000人
<p>商品開発</p> <p>地場産品を利用した加工品の生産、新商品の開発及び販売促進</p> <p>機能強化等を図るための加工施設等の整備</p> <p>加工施設等の設置や機能強化を図る施設の検討及び整備</p>						
<p>県内の道の駅等との連携</p> <p>連携内容の検討</p> <p>連携の実施</p>						
<p>海の駅の整備</p> <p>整備内容の検討</p> <p>施設の整備</p>						
<p>地域特産品を活用した加工品の開発・販売</p> <p>加工品の検討・開発</p> <p>加工品の販売・施設の充実</p>					来場者数 (H22:153,446人)	180,000人
<p>地域の情報発信</p> <p>町のHPを活用した情報発信</p> <p>「海の駅」独自のHPの開設とそこからの地域情報の発信</p>						
<p>高知県東部・徳島県南部等の道の駅との連携</p> <p>連携内容の検討</p> <p>連携の実施</p>						

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組みと成果	課題	主な内容
<p>19 道の駅「田野駅」の機能強化(特産品開発及び情報発信)と施設整備等</p> <p>【田野町】</p> <p style="text-align: center;"><b>修正後</b></p>	<p>地域の特産品や観光情報の発信機能を強化し、田野駅屋の集客力を最大限に有効活用する。併せて地域農産物等を活用した加工品を開発・販売し、消費拡大を図っていく。さらに、それらに資する施設整備等を行う。</p>	<p>・田野町 ・道の駅指定管理者 ・加工施設指定管理者 ・生産者組織</p>	<p>・加工品7品目(たのかつ、鯖コロッケ等)を開発(H21) ・加工品3品目(コロッケ2種、鹿肉カレーライス)を試作(H22) ◆加工品の開発に関しては、22年度までに10品目の開発・試作がなされて販売されてきたが、販売が継続されているものは少ない。</p> <p>・田野駅屋拡張(74㎡増)(H23.3) ◆情報発信コーナーが整備されたことで、中芸地域以東の観光情報発信の拠点ができた。</p>	<p>・情報発信機能の更なる強化 ・地場産品を活用した魅力ある特産品(加工品)の開発と販売体制の強化 ・施設整備に向けた関係機関等の調整</p>	<p>◆情報発信機能の強化</p> <p>◆加工品の開発・販売の強化</p> <p>◆機能強化のための施設整備等</p>
<p>20 地場産品直販所「かっぱ市」の機能強化</p> <p>【芸西村】</p> <p style="text-align: center;"><b>修正後</b></p>	<p>地場産品直販所「かっぱ市」のリニューアルオープンに伴い、花卉類・鮮魚類の販売を拡充させ、他の直販所と差別化することで売上の増加を図るとともに、地域経済の活性化を図る。村内で生産される農産物等(ピーマン・黒砂糖等)を使用した新たな商品を企画開発し、村内産品の付加価値を高める。</p>	<p>・芸西村 ・(株)かっぱ市 ・生産者グループ</p>	<p>・H23年10月産振補助金を活用し、リニューアルオープン ・営業時間の延長 ◆売り場面積を1.5倍に拡充し、花卉部門を中心として、惣菜・鮮魚部門等の売上増加と商品回転率を高め、収益の増加を図る。 ◆外販部門の継続雇用と、テイクアウト飲食部門の充実・拡充により、短期雇用を図る。</p> <p>・かっぱ市職員が農業創造セミナー等の研修会に積極的に参加(H23) ・産振アドバイザーの助言による試作商品の販売(H23) ・店内調理場での弁当等加工品の販売開始(H24.10~) ◆具体的な活動計画を作成するなど、サービス向上・売上増加に向けた意識の高揚が図られた。</p>	<p>・花卉出展量の確保 ・新商品の開発、新商品の原材料確保(サトウキビ等) ・商品集荷システムの構築 ・テイクアウト商品の充実</p>	<p>◆地域資源を活用した地域経済の活性化</p> <p>◆安定供給の仕組みづくり</p> <p>◆新たな商品の企画開発</p> <p>◆地域観光情報等の発信</p>

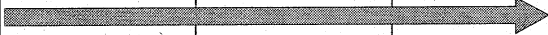

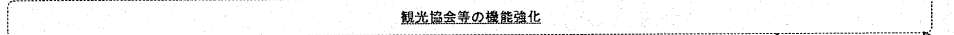




第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
<p><b>情報発信機能の強化</b></p> <p>市場調査、情報発信コーナーの認知度アップに向けた検討と取組</p> <p>観光・宿泊施設との連携による情報の共有化、ガイドマップやHPでの情報発信による観光施設等への誘導</p> <p>人材育成(スキルアップ研修、先進地視察等)</p>						
<p><b>加工品の開発・販売の強化</b></p> <p>生産者と連携した加工品づくり</p> <p>機能強化のための施設整備等</p> <p>関係者間の協議及び基本構想づくり</p> <p>基本構想の具体化と施設整備等</p>						
<p><b>地域資源を活用した地域経済の活性化</b></p> <p>菟西村特産品加工施設(仮称)の検討</p> <p>施設整備着手</p> <p>商品開発・販売</p>					<p>売上額 (H22:87,000千円)</p>	<p>106,000千円</p>
<p><b>安定供給の仕組みづくり</b></p> <p>花卉販売量の確保、集荷システムの構築 他</p>						
<p><b>新たな商品の企画開発</b></p> <p>地域資源共有会議等を活用した新商品の検討</p> <p>新商品の開発・販売</p> <p>効果的なPRの実施(ホームページの作成、スタッフブログ、定期的な催事の開催 他)</p>						
<p><b>地域観光情報等の発信</b></p> <p>観光情報等の発信施設としての役割を担うための検討</p> <p>インターネットの整備、情報発信コーナー設置(パンフレット等の配布)</p>						
<p>観光情報等の発信施設としての役割を担うための検討</p>						

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組みと成果	課題	主な内容
<p>21 安芸地域の観光振興の推進～東部地域博覧会の開催～</p> <p>【安芸地域全域】</p>	<p>安芸地域における市町村が連携して地域博覧会の開催することを契機に、安芸地域外からの誘客を増加させて地域経済の活性化を図る。併せて、地域博覧会により蓄積された広域観光のノウハウを活かすために、広域観光のプロモーション機能や地域コーディネート機能を持つ組織をつくることにより、地域博覧会後における広域観光の推進体制を整備する。</p>	<p>・安芸広域市町村圏事務組合 ・市町村 ・観光協会等 ・地域団体 ・民間事業者 ・高知県東部地域博覧会推進協議会</p>	<p>・観光素材集「土佐東方見聞録」の作成5万部(H21～22) ・DVDの作成 500枚(H21) ・ランドオペレーター1名雇用(H22.6～) ・安芸球場キャンプ誘致活動(H21～23) ・安芸球場改修基本設計(H23) ・エージェントセールス(H25.1.10～11中四国、H25.2.5～6関西)</p> <p>◆素材集を活用した県外エージェントやマスコミへの営業活動を展開。特に森林鉄道、室戸ジオパーク、モネの庭をメインに東部地域の面的なPRを実施。今後の足がかりにつなげている。</p>	<p>・広域的な連携強化 ・戦略的な商品造成 ・体験メニューの充実と人材育成</p>	<p>◆安芸地域における地域博覧会の開催</p> <p>◆広域観光組織の立上げと観光協会等の機能強化</p> <p>◆戦略的な広報・PR活動の展開</p> <p>◆周遊観光や教育旅行の商品づくり、スポーツ大会等の誘致と観光拠点等の磨き上げ</p> <p>◆受入体制の整備</p>

修正後

第2期計画					H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	指標		目標値(H27)	
	 <p>安芸地域における地域博覧会の開催</p> <p>博覧会推進協議会の立ち上げ</p> <p>博覧会推進協議会による運営</p> <p>基本計画の策定</p> <p>実施計画の策</p> <p>プレ博覧会の実施</p> <p>博覧会の開催</p>				園内主要施設訪問者数 (H22:120,394人)	140,000人	
	 <p>広域観光組織の立ち上げと観光協会等の機能強化</p> <p>広域観光組織の立ち上げ及び体制強化</p> <p>観光協会等の機能強化</p>				園内宿泊者数 (H22:137,439人)	150,000人	
	 <p>戦略的な広報・PR活動の展開</p> <p>旅行エージェント等への戦略的な広報活動の展開及び観光情報の発信強化</p>				園内観光施設、イベント等集客数(東部地域博覧会の開催に向けた基礎数値) (平成24年度)	園内観光施設、イベント等集客数(東部地域博覧会による目標数値) (910,250人)	
	 <p>周遊観光や教育旅行の商品づくり、スポーツ大会等の誘致と観光拠点等の磨き上げ</p> <p>観光拠点等の磨き上げ          &lt;室戸・東洋エリア&gt; 室戸ジオパーク、生見・白浜海岸・吉良川町並みなど          &lt;中芸エリア&gt; モネの屋・魚楽湖森林鉄道遺産、中岡慎太郎館、奈半利海浜センター、安田まちなみ交流館・和、唐浜食わず貝、塩づくり体験ハウス、藤村製糸など          &lt;安芸・芸西エリア&gt; 岩崎弥太郎生家、土居邸中、野良時計、伝承館、琴ヶ浜など</p> <p>教育旅行商品づくりと体験プログラムの磨き上げ</p> <p>地域内スポーツ拠点施設等を活用した大会や合宿等の誘致と施設整備(安芸市営球場・中芸広域体育館・室戸広域公園・安芸広域公園など)</p>						
	 <p>受入体制の整備</p> <p>民泊の推進や人材の養成など受入体制の整備</p>						

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組みと成果	課題	主な内容
22 世界ジオパーク認証を活かした観光の振興 《室戸市》	世界ジオパークに認証された室戸ジオサイトにおける受入体制の整備や商品開発に取り組み交流人口の拡大を図っていく。	・室戸市 ・室戸ジオパーク推進協議会 ・室戸市観光協会	・看板や遊歩道、駐車場などの環境整備(H21～23) ・ガイドやジオパークマスターの養成研修の実施(H21～H23)(H25年4月ガイド登録者:48人) ・世界ジオパーク認証(H23.9.18) ◆モニターツアーの実施(H24)によるツアー参加者のニーズを把握した。 ◆日本ジオパーク全国大会の開催(H24.11、参加者:約2,200人)全国大会を開催することによる宿泊・食事利用等の経済効果と地域住民との連携が図られるとともに室戸ジオパークの理解が促進された。 ◆拠点施設整備の基本計画ワークショップの開催(H24)により、地域住民が積極的に関わった計画が策定された。	・受入れ体制の強化 ・拠点施設整備	◆ガイド育成  ◆ジオツアーの開発  ◆情報発信、国際交流  ◆商品開発  ◆拠点施設整備  ◆サイト整備
23 イルカのふれあい体験による交流人口の拡大 《室戸市》	室戸ドルフィンセンターの待合施設やシャワー施設を備えた施設建設により、利用者満足度の向上、物販スペース等の拡大による事業売り上げの向上を図る。また、陸上プール設置及びイルカ飼育頭数を増やすことによる体験者の増加を図る。	・NPO法人室戸ドルフィンプロジェクト ・室戸市	・施設・設備等(ウエットスーツ、浮き桟橋、倉庫、屋外看板)の充実(H21～23) ・広告宣伝の強化(H21～23) ・体験プログラムの見直し(H22～23) ◆高額プログラムのドルフィンスイムの参加者が大幅に増加した。(H20、1,204人からH24、1,541人) ◆H24、新たな陸上施設の建築及び陸上プール(直径10m、水深5m)の整備により、より安心・安全にふれあい体験が利用できるようになった。また、物販・休憩スペースも確保され、来場者の満足度の向上、事業収入の増加に向けた土台を築いた。	・ジオパーク等地域の観光素材を組み合わせた情報発信 ・より多くの集客を図るための広報・営業の検討 ・周辺施設等との連携による集客	◆情報発信  ◆ドルフィンセンターの機能充実

修正後

第2期計画					H28以降	指標及び目標		
H24	H25	H26	H27	指標		目標値(H27)		
<b>ガイド育成</b> ガイド研修(登録ガイド数の増加・外国語対応ガイドの育成・周遊ガイドの育成) 深層水・佐喜浜・段の谷・加奈木のつえサイト等のガイド育成					<b>ジオパークガイド登録者数</b> (H22:20人)	40人		
<b>ジオツアーの開発</b> ジオパーク周遊バス実証実験 【実証実験の結果により】周遊バスの運行 既存体験プログラム(炭焼体験・農業体験等)のブラッシュアップ コーディネート組織の検討							<b>ジオパーク関係施設来訪者</b> (H22:53,473人) ※ドルフィンセンターを含む	70,000人
<b>情報発信、国際交流</b> ジオパーク全国大会開催 世界ジオパーク再審査 ・全国大会・国際会議でのPR・室戸版こどもサマースクール等イベントの開催								
<b>商品開発</b> ニーズ調査 商品開発(アドバイザー活用)					<b>拠点施設整備</b> 基本構想・基本設計 実施設計 拠点施設の整備	<b>サイト整備</b> ビジターセンター・インフォメーションセンター機能強化 深層水サイトアクアファームの展示充実 吉良川町並みサイト拠点施設整備 羽根サイト歩道整備		
<b>情報発信</b> パンフレット・HP・旅行雑誌等での情報発信							<b>ドルフィンセンターの機能充実</b> 待合・シャワー室等を備えた施設整備 陸上プール設置及びイルカ飼育頭数の増	

**【安芸地域】**

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組みと成果	課題	主な内容
<p>24 岩崎弥太郎生家を核とした観光振興</p> <p>【安芸市】</p> <p><b>追加</b></p>	<p>岩崎弥太郎生家エリアや土居郭中エリアを観光拠点として磨き上げを実施し、交流人口の拡大による安芸市の経済の活性化を図る。</p>	<p>・安芸市</p> <p>・安芸市観光協会</p> <p>・「はばたけ弥太郎」安芸市推進委員会</p> <p>・安芸市観光ボランティアガイドの会</p> <p>・民間事業者</p>	<p>・土佐龍馬であい博での、ころざし社中開催(H22入場者、113千人、目標100千人)</p> <p>・ボランティアガイドの育成(40名)(H21~H23)</p> <p>・H23.3、安芸観光情報センターの設置</p> <p>◆ボランティアガイドの力量アップや観光に係る人材が育成されてきた。</p>	<p>◆岩崎弥太郎を活かした取組の強化</p>	<p>◆岩崎弥太郎生家等の観光資源の磨きあげ</p> <p>◆三菱グループとの連携による岩崎弥太郎の顕彰とPR</p> <p>◆安芸観光情報センターの機能強化</p> <p>◆観光ビジョンの策定</p>
<p>25 東洋町における体験観光の推進</p> <p>【東洋町】</p> <p><b>修正後</b></p>	<p>サーフィンやダイビングなどを中心としたマリンスポーツ等の体験を目的とした修学旅行や企業研修、サークル活動の受入れ施設を整備するとともに、新たな体験プログラムの開発を行う。</p>	<p>・東洋町</p> <p>・地元マリンスポーツ関係事業者</p> <p>・観光振興協会</p>	<p>・海の駅運営委員会の設置及び協議(H25)</p> <p>・H25、町観光関係予算化</p> <p>・観光振興補助金(50万円)</p> <p>・新商品開発事業費補助金(50万円)</p> <p>◆実行支援チーム会などでの協議や整備対象施設の現況調査により、課題が明確化され、今後の取組みの変更につながった。</p>	<p>・県外事業者によるダイビングスクールの開催</p> <p>・地元事業者(サーフショップ等)との協調</p> <p>・既存施設の財産処分(改修)に係る関係機関との調整</p>	<p>◆海の駅を拠点とした体験観光プログラムの開発</p> <p>◆受け入れ施設の整備</p> <p>◆備品の整備</p> <p>◆宣伝・広報</p>

第2期計画				H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27		指標	目標値(H27)
	<p>岩崎弥太郎生家等の観光資源の磨きあげ</p> <p>岩崎弥太郎生家エリアの整備</p> <p>土居廊中エリアの整備</p>					
三菱グループとの連携による岩崎弥太郎の顕彰とPR						
	<p>安芸観光情報センターの機能強化</p> <p>運営体制の強化</p> <p>施設機能の見直し・整備</p> <p>観光ビジョンの策定</p> <p>安芸市の観光の将来ビジョンの策定</p>					
海の駅を拠点とした体験観光プログラムの開発						
	<p>体験観光プログラムの検討</p> <p>観光団体との協力体制の構築</p> <p>観光資源の掘り起こし</p>		<p>体験観光プログラムの開発・実施</p> <p>海の駅の観光情報コーナーにおいて体験観光プログラムの紹介</p>			
受け入れ施設の整備						
	<p>既存施設の改良の検討</p>	<p>既存施設の改良</p>	<p>新施設整備の検討</p>			
備品の整備						
	<p>備品の検討</p>	<p>備品の整備</p>				
宣伝・広報						
	<p>ホームページの設計、開設</p>					

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組みと成果	課題	主な内容
26 藤村製糸を活用した観光振興 【奈半利町】	藤村製糸を活かした観光振興をなはり浦の会とともにを行い交流人口の拡大を図る。	・藤村製糸 ・なはり浦の会 ・奈半利町 ・なはり観光文化協会	<p>&lt;藤村製糸&gt; ・大正6年(1917年)創業開始、奈半利町の地場産業の象徴として生糸文化や歴史を紡いだが、平成17年(2005年)操業を停止。平成19年、近代化産業遺産(経済産業省指定)に建物の一部(西蔵、東蔵、倉庫、石塀)を登録。工場建物のうち、西蔵、石塀を残して事業所建物を解体(H25.12)し、跡地へ新規に太陽光発電事業を展開。事業所敷地の一部に生糸産業と奈半利町の歴史等を展示する、観光文化施設(記念館)の整備を計画(H26.10)</p> <p>&lt;なはり浦の会&gt; ・平成11年、なはり浦の会を設立(森美恵会長、会員数:45名)奈半利町に訪れる観光客に対して、藤村製糸や町内に残る古民家を案内する町歩きガイドに取組んでいる。(ガイド実績:H24、390人)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業所有の施設運営やガイド組織の活動と町の観光施策のそれぞれの連携</li> <li>・ガイド組織の活動拠点の整備</li> <li>・製糸産業の展示物以外の展示物の充実</li> <li>・奈半利町の歴史や文化等の効果的な情報発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆観光文化施設(記念館)の整備</li> <li>◆ガイド組織の活動強化</li> <li>◆地域観光資源の発掘、磨き上げ</li> <li>◆情報発信</li> </ul>
27 中芸地区における広域観光の推進 【奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村】	官民が協働して、地域内にある観光資源を磨き上げ魅力のある滞在型・体験型旅行商品づくりを行いながら、観光客の増加を図り、地域の経済の活性化を推進する。	・中芸広域連合 ・中芸観光協議会 ・中芸商工会 ・観光関連事業者等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中芸観光協議会の運営(H24、全体会:2回、運営会議10回)</li> <li>・中芸観光ビジョン策定委員会開催(H24:4回)</li> <li>・中芸観光スペシャルキャンペーンの開催(H24、実行委員会:9回)</li> <li>・ホームページの開設、イベント等での観光情報PR(1,110名)</li> </ul> <p>◆中芸観光協議会を設立(H24.4.1)し、中芸観光ビジョンが策定され、これからの具体的取組が示された。</p> <p>◆旅行会社等と調整(高瀬観光、伊予鉄トラベル、朝日旅行、土佐電トラベル等)し、観光プロモーション(8回)が開催された。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・魅力ある旅行商品の造成</li> <li>・ガイド等の受入体制の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆中芸観光協議会の設立と受入体制の充実</li> <li>◆魅力ある旅行商品づくりと観光情報の発信</li> </ul>
28 魚梁瀬森林鉄道遺産を活用した交流人口の拡大 【奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村】	森林鉄道遺産(産業遺産、森の仕事、当時の生活文化等)を中芸地区の新しい地域資源(地域遺産)ととらえ、一般層の利用も視野に入れた活用に取り組み、地域連携を通して、交流人口の拡大や文化活動の促進を図る。	・奈半利町 ・田野町 ・安田町 ・北川村 ・馬路村 ・中芸観光協議会 ・中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・案内看板、遊歩道、駐車場の設置(H21~23)</li> <li>・観光用ビデオの作成(H22)</li> <li>・開通100周年事業の実施(H23~H24)</li> <li>・ガイドの育成14名(H21~22)</li> <li>◆東部地域の新しい観光素材として旅行会社の注目度が高く、ツアーが催行される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・力町村広域の窓口の設置</li> <li>・ガイド、食事、宿泊等受入体制の強化</li> <li>・100周年記念事業を契機とした更なる情報発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆遺産の活用と普及啓発活動</li> <li>◆遺産に関する調査・保存への取組</li> <li>◆遺産の保存管理・活用計画の策定</li> </ul>

追加

修正後



第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
		観光文化施設(記念館)の整備 整備内容の検討 施設の整備			町並みガイド実績 H24、390人	800人/年
		ガイド組織の活動強化 活動拠点の検討 活動拠点の整備 ガイド組織の法人化の検討 活動地域、活動内容の拡大の検討 (関係機関等とのガイドスキルアップ勉強会・交流会の開催)				
		地域観光資源の発掘、磨き上 施設展示内容の検討・町内観光資源調査				
		情報発信 東部博覧会開催に併せた施設PR 観光文化施設や町並みガイド等、奈半利町をパンフレットやホームページ等でPR				
		中芸観光協議会の設立と受入体制の充実 ・中芸観光協議会の設立 ・観光事業計画の策定	法人化等に向けた検討			
			地域内にあるガイド団体の組織化及び養成 観光関連事業者のおもてなし力の向上と地域の食のブラッシュアップ 地域事業者とタイアップした土産物等の開発・販売			
		魅力ある旅行商品づくりと観光情報の発信 地域内にある観光資源を組み合わせた旅行商品づくり 旅行エージェント等への商品提案・PR活動の展開				
		遺産の活用と普及啓発活動 100周年イベントの開催	遺産ウォーク等の実施と森林鉄道のネットワークを活用した普及・啓発活動		ツアー客数 (H22:1,171人)	1,500人
		遺産に関する調査・保存への取組 支線調査活動	遺産の保存活動(修繕・美化活動など)			
		遺産に関する保存と活用への取組の一体化と明確化 関係者間の調整	旧魚梁瀬森林鉄道遺産の保存管理・活用計画の策定	計画に基づく施設整備等、 保存と活用を支える仕組みづくり		

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組みと成果	課題	主な内容
29 体験型観光と地域の加工品づくりの推進 ～大野台地は、えいところ！～ 【田野町】	交流事業の推進による交流人口の拡大と併せて新たな加工品開発に取り組むことで、農畜産物の消費拡大や所得の向上、雇用機会の創出を図る。	・大野倶楽部 ・田野町	・体験活動による交流事業の受入れ、主催による実施 ・稲田塾の体験合宿(H22～23) ・加工品の開発の検討、試作(H24～)、販売(H25)  ◆H22年度に、初めて大野倶楽部主催による体験イベントを企画、実施するなどして体験メニューの試行に取り組んだ。H23年度以降、これまでの経験を活かして体験メニューの本格実施に取り組み、その結果、交流人口の拡大など一定の成果は見られる。また、東部地域で初めてとなる民泊にも積極的に取り組んでおり、教育旅行の受入れなど今後の展開に期待が持てる。  ◆H25年度には、加工品の販売と女性部主催事業の開催を行い、女性部の新たな取組を開始した。	・事務局体制の確立、受入れと実施体制の強化 ・地域住民への活動理念の浸透  ・他地域の資源と連携したメニューづくり ・活動を収入に繋げていく仕組みづくり ・地域資源を活かした農業体験メニューの実施 ・民泊による修学旅行の受入れ	◆体験型観光の推進  ◆加工品の開発・販売  ◆地域食材の提供の検討
30 世界に2つの「モノの庭」の誘客強化による交流人口の拡大 【北川村】	県外での広告宣伝や、それに連動した営業活動によって、来園への新たな動機付けにつながる施設整備やイベントの実施をPRして集客力を高める。	・北川村 ・きたがわジャルダン	・旧ワイナリーを多目的ホールへ改修(H22) ・TVや専門誌等様々な広告媒体を用いたPR(H22～23) ・経営コンサルタントのアドバイスを受けたコスト削減への取り組み(H23～) ・庭園整備(H22、H23) ◆入園者数(決算期の毎年2月から翌年1月までの年間入園者数) H21.2～H22.1 60,040人 H22.2～H23.1 53,369人 H23.2～H24.1 59,101人 H24.2～H25.1 55,288人 対H23:93.5% 対H22:103.6%	・入園者数の減少傾向(開園1年目の20万人超から、近年は5万人台で推移) ・県外での認知度が低い(GAP調査結果) ・誘客対策の強化 ・営業体制の強化	◆主に高知県内を対象とした広告宣伝と営業活動  ◆新商品の開発と販売促進  ◆経営改善に向けた取組
31 集落活動センター「かまん東川」を拠点とした魅力ある地域づくり 【安芸市】	安芸市東川地区の資源を活用した新商品の開発や、農産物の販路の拡大を通じて所得の向上を図るとともに、交流人口の拡大や移住促進の取り組みを通じて、持続可能な集落づくりを目指す。	・東川地域おこし協議会			◆地域資源を活用した新商品の開発  ◆農産物等の販路拡大  ◆交流人口の拡大と移住促進への取り組み

追加

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
<b>体験型観光の推進</b> 交流事業の内容の検討及び継続的な取組 民泊受入れのための体制づくり						
<b>加工品の開発・販売</b> 加工品の企画づくり 加工品の試作・販売 販路の確保または拡大						
<b>地域食材の提供の検討</b> 提供施設の検討 提供施設の整備						
<b>主に高知県内を対象とした広告宣伝と営業活動</b> タウン誌やパンフレット、口コミ等を使った広告営業活動 イベントの開催					<b>入園者数</b> (H22:53,369人)	<b>65,000人</b>
<b>新商品の開発と販売促進</b> 『モネの庭』のブランドイメージを活かした商品づくりとネット販売等の販路構築						
<b>経営改善に向けた取組</b> コンサルタントを導入した経営改善						
<b>地域資源を活用した新商品の開発</b> 新商品の試作 商品化 販売促進						
<b>農産物等の販路拡大</b> 販売ツールづくり 庭先集荷等による農産物の通販と集活センターでの直売						
<b>交流人口の拡大と移住促進への取り組み</b> フェイスブック等を通じた情報交換、東川地区ファンづくり、交流イベントの拡充 空き家の掘り起こしと施設改修等 農業研修生の受け入れ、移住・定住の斡旋等						

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組みと成果	課題	主な内容
32 安田中山地区の活性化プロジェクト 《安田町》	地区住民主体で「中山元気プラン(仮称)」の策定を行い、地域資源である自然薯の生産拡大に取り組むとともに、地域の観光資源を活用して交流人口の拡大を図るなど、中山地区を元気にする取組を推進する。	・安田町 ・中山を元気にする会 ・安田川漁協 ・自然薯生産組合 ・味工房じねん ・中山合同女性部	・集落活動センター「なかやま」の開設(H24.4月) ・中山を元気にする会運営会開催(H24) ・高知大学・安田町連携事業協議会設置(H24) ・旧中山小学校(集落活動センター)の耐震診断(H24) ・安田ふるさと応援隊(地域おこし協力隊員:1名採用)による運営支援の継続(H25) ・集落調査員2名の採用(H25)  ◆ふるさと応援隊員の活動を通じた地域住民の参加意識が醸成された。	・集落活動センターの円滑な運営と外部人材の活用	◆「中山元気プラン(仮称)」の策定 ◆味工房じねん、せせらぎの郷小川、集落活動センターを核とした交流人口の拡大  ◆中山自然薯のブランド化  ◆新たな観光資源の発掘
33 北川村温泉を核とした中山間振興 《北川村》	北川村温泉の建築に併せ、地域の集落活動の拠点を整備することにより、交流人口の拡大と地元農産物の直販などの集落活動を拡大することで中山間地域の振興を図る。	・北川村 ・北川村中部地区集落活動協議会 ・北川村観光協会	○昭和49年、林業振興の拠点施設として北川村温泉を整備。 平成19年、北川村の施設運営を指定管理((株)カゴオ)に移行。 ・H24年度来場者 宿泊者数 5,463名 入浴者数 17,731名  ○平成24年7月、和田・小島・平鍋地区の住民で組織する北川村中部地区集落活動協議会を設置 北川村温泉内で直販市を試行(H24.7～、土日開催) ・休耕田対策として、協議会員による耕作や花(レンゲやチューリップ)を植えて誘客事業に着手。	・老朽化(S49築)した温泉施設は、耐震基準を満たしておらず、バリアフリー化もされていない。  ・宿泊室全11室のうち、6室にトイレ・洗面所施設が無い  ・温泉までの交通アクセスが悪い(頻りに沿線で落石等が発生)  ・集落活動協議会の活動の場が少ない	◆温泉施設の整備  ◆情報発信  ◆地域交流活動、集落活動の展開
<b>追加</b>					
34 馬路村魚梁瀬地区の活性化プロジェクト 《馬路村》	馬路村魚梁瀬地区の資源と人材を有機的に結合させ、交流人口の拡大と新ビジネスの創出を目標とした事業を展開する。	・馬路村 ・魚梁瀬地区住民団体(自治会)			◆外部人材の導入と住民組織づくり  ◆今までにない視点からの交流拠点の実現  ◆丸山公園等の観光素材の磨き上げ
<b>追加</b>					

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
<p>「中山元気プラン(仮称)」の策定</p> <p>プランの検討と策定</p>	<p>味工房じねん、せせらぎの郷小川、集落活動センター等を核とした交流人口拡大</p> <p>安田川アユおどる清流キャンプ場や旧中山小中学校跡など中山地区にある資源の磨き上げなど</p> <p>味工房じねんやせせらぎの郷小川など中山地区の地域拠点を活用した交流人口拡大に向けた取組</p> <p>集落活動センターの開設</p> <p>集落活動センターを核とした旧中山小中学校の施設利用案の具体化と施設整備</p>					
<p>中山自然着のブランド化</p> <p>市場調査、地域資源調査、ブランド化の検討等</p>	<p>生産農家拡大、生産組合の体制整備、販路開拓等</p> <p>生産拡大と加工品の開発・販売</p>					
<p>新たな観光資源の発掘</p> <p>森林セラピー等に関する調査研究</p>	<p>真部広域博覧会を契機にした展開</p> <p>継続的な活用</p>					
	<p>温泉施設の整備</p> <p>建築計画の検討・基本計画の策定</p> <p>実施設計</p> <p>温泉施設の整備</p> <p>情報発信</p> <p>パンフレットやホームページ等で北川村の観光施設を含めたPR</p> <p>東部博覧会権に併せた施設PR</p> <p>地域交流活動、集落活動の展開</p> <p>直販所整備の検討</p> <p>直販物、体験交流メニューの検討</p> <p>集落活動の検討・実施</p>				<p>来場者</p> <p>H24</p> <p>宿泊: 5,463人</p> <p>入浴: 17,731人</p>	<p>H24年比10%増</p> <p>宿泊: 6,000人</p> <p>入浴: 19,500人</p>
	<p>外部人材の導入と住民組織づくり</p> <p>高知ふるさと応援隊の募集検討</p> <p>高知ふるさと応援隊の導入</p> <p>地域住民、小学校、村役場と協同して地域活性化の組織作りとその運営</p> <p>今までにない視点からの交流拠点の実現</p> <p>土佐MBA等を活用した、新たな人材の発掘と育成</p> <p>産業振興アドバイザー等を活用して交流拠点のプラン作成。高知ふるさと応援隊と協同しての活動を開始、施設整備</p> <p>丸山公園等の観光素材の磨き上げ</p> <p>観光素材としての現況調査</p> <p>安芸広域博覧会を活用した新たな事業の展開と、その成果を基礎とした活動の実施</p>					

